

青学大・東海大・駒大……打倒3強に向け準備は万端だ!

日テレ

いざ
72年ぶりの悲願へ

第25回大会以来

「3強を全て倒して優勝す
る」(平嶋杏雲 情コミ)宮崎大
学。昨年ぶり3度、箱根駅伝で上位
止む。それが日本大学駅伝(以下、金子大)
で、5年ぶり3度目の優勝した明大。飛
躍が期された新1ムービーの矢先、コロナ禍
のレースで上位3強を果たした72年ぶりの
総合優勝へ、古豪のペールを脱ぐ時が
来た。

1月2日 8時号砲



(香)うどん丸香

撮影者:川和健太郎

明大スポーツ

明大スポーツ新聞
1952年
編集人 中野 純一
東京大手町地区田舎町(1)
〒101-8301 TEL/FAX 03-3233-3760
http://meisupu.net

12月17日 木曜日
令和2年(2020年)
第507号

箱根駅伝
特集号

金家

紫紺よ
返り咲け!!

自主性

◆チーム内自己ベストトップランキング◆	
4月時点 14:07.04 約12秒短縮	
①	前田 14:46.82
②	鈴木 13:54.84
③	渡邊 13:41.87
④	鈴木 13:56.28
⑤	安田 14:00.53
⑥	長倉 13:50.72
⑦	小澤 13:49.58
⑧	前田 14:01.30
⑨	鈴木 13:54.70
⑩	鈴木 28:40.72
⑪	鈴木 28:19.77
⑫	鈴木 28:48.12
⑬	鈴木 28:22.27
⑭	村上 28:58.16
⑮	小林 28:29.88
⑯	前田 29:03.35
⑰	富田 28:35.41

◆上位16人平均タイムの変遷◆	
5000m	4月時点 14:07.04 約12秒短縮
12月17日現在 13:54.70	
1万m	4月時点 29:16.42 約35秒短縮
12月17日現在 28:41.35	

◆駅伝戦力付帯◆	
東	西
指揮官が旗団につづいて走る層の厚さと、恵まれたスピード生かしてついに下取リ。山も一切不安なし。72年ぶりの勝利を挙げた。眞理が走れていた	明大 横網 青学大
全日本覇者として挑む。学生長距離界の先頭をひいた田澤の優勢は、他校を差し置いている。眞理が走れていた	駒大 東海大
全日本中盤は3分の失速をよしに首位独走。立役者の田澤や太田は、日本手順で27分をマークした。近年苦しみ山の対応がいかに	早大 関監 東洋大
気付けは上位にいることでの楽しみのアドバイス。例年通りのじぶんさんは健在だ。チーム屈指の実力を誇る遠藤が本領発揮できるか	帝京大 小笠 中大
3年生主将木村、エース藤田の代を卒業。成績差し中西大と合わせ、卒業生の穴を埋めている。序盤から食いつき、昨年度の再現を狙う	国学院大 前田 順大



自肃で磨いた個の力 カギは「自主性」にあり

前田主将

「総合力」

「自主性」

「自肃」

「出雲止」

「駅伝戦国時代、自分たちの走りを」

「サポート光った逆境」

「最大限のパフォーマンスを全員で大舞台挑む」

「ホイップス」

「オンライン」

「新聞とデジタルが、手を組んだ。」

「読賣新聞」

「オンライン」